

わたしたち
次世代へのおくりもの

榊谷知香（富山・富山市立南部中学校）

「ちゃんと探しなさい！」あるとき、教科書をなくして、母にこっぴどく叱られた。

「教科書は税金で子どもたちに配られているの。大切なものなのよ！」

「税金がなんだっていうの・・・」

とブツブツ言いながらやつのこと探し出すと、教科書の裏を母は指さした。「え？」と思って見ると、小さくこんなことが書いてあった。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

あわててほかの教科書を見してみる。どの教科書にも全く同じ言葉が書かれていた。

「税金」と言われて思い浮かぶのは、所得税や何かを買った時にかかる消費税のこと。しかし、教科書に税金ってどういうことだろう。

気になって調べてみると、学校で支給される教科書は全て、税金によって無償で私達に届けられていることを知った。教科書だけじゃない。学校施設、エアコンなどの設備、パソコンや机椅子などの備品、給食費の補助、さらには水道費や光熱費まで、税金によって支えられているのだという。

祖母に聞くと、こんな話をしてくれた。

「私が子どもの頃（昭和30年頃）は、教科書は自分たちで買わなければいけなかったんだよ。だから、中には教科書が買えなかったり、学校に行けなかったりする子がいた。税金のおかげでそういう負担が減って、みんなが平等に教育を受けやすくなったんだよ。」

教科書を自分で買う時代があったなんて信じられないと思った。さらに調べると、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」によって昭和38年から無償化されたのだそうだ。

新学期、教室に入って席に座り、新品の教科書を開く。友人と登下校で渡る横断歩道は塗り直されていて、白が目に鮮やかだ。ひび割れていた道路もこの間の工事で直された。近所の小学校の古くなった塀もいつのまにか新しくなっている。私達の日常を、税金が支えてくれているのだ。

学校だけではない。中学生の私も小学生の妹も医療費が無料なのだという。それも税金のおかげだ。

「これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ・・・」と言われると、ちょっとプレッシャーだけれど、たくさんの大人たちに見守ってもらっているような温かな気持ちになってくるから不思議だ。中学生の私は、今は税の恩恵を受けるばかりだ。だからこそ、学校生活を思い切り楽しみ、頑張って勉強をし、将来は社会に恩返しができるような大人に成長したいと思っている。